

時事文翻訳添削ノートから

私は毎年授業で時事文翻訳の添削を行っています。翻訳に挑む学生さんたちに具体的な事例に沿って役に立つ情報をご紹介します。

情報 27

P80の2行目に“念給自己听”があります。

この“给”は授与動詞（人に物を渡したり、あげたりする動作を示す動詞）の後ろに置かれ、その対象を導きます。

例：“递给～”「～に渡す」 “交给～”「～に渡す」
“寄给”「～に郵送する」 “送给～”「～にプレゼントする」

また、そういった意味合いから、ある動作をしてあげたりするときにも使います。

例：“念给～”「読んで聞かせる」 “讲给～”「話して聞かせる」

情報 28

P82の4行目に“进入21世纪后”があります。日本語にすれば「21世紀に入ってから」で、何の違和感ありませんが、“进入国际市场”“进入国际影坛”となると、日本語なら、「国際市場に進出する」、「国際映画界に打って出る」といった表現の方が似合います。“国際”という語があって内から外へというイメージがあるのでしょうか。

“国際”が無ければ、“进入市场”「市場に参入する」、「进入影坛」「映画界入りする」でおかしくありません。“进入政坛”も「政界に進出する」「政界入りする」どちらも違和感ありません。ほとんど同じだけれどもちょっと違う。同じ漢字を使うゆえの面白さと言えましょう。